

# ふるさと吉富町

私たちが暮らす「吉富町」には、現在に至るまでの数々の歴史があります。そして、そこには現在の快適な生活のベースがあります。そんなふるさと吉富町について、いろいろな視点からご紹介していきます。



## 第28回

## おいろかし 乾衣祭

### 夏の風物詩

夏真っ盛りの8月。吉富町の八幡古表神社では、6日・7日の2日間にかけて、ある伝統的な神事が行われます。「乾衣祭」と呼ばれるこの神事は江戸時代中期に起源をもつと言われ、4年に1度この神社で奉納される「細男舞・神相撲」の神様たちが着る着物「御神衣」を虫干しするものです。

「おいろかし」の語は、その漢字が表すとおり「いろかす（衣乾かす）」つまり「ものを乾かす」ということを意味しています。約千枚の色彩豊かな小さな着物が社殿いっばいに並べられているさまは圧巻で目にも美しく、写真映えもばっちり。歴史と風情を感じることができ、みやびやかな神事です。

### 伝承されてきた 奉納文化

時代は遡り、江戸時代。黒田・細川・小笠原・奥平の歴代の中津藩主やその一族は、武運長久や出産・普請無事などを願い、神社に着物を奉納していました。黒田家6着、細川家6着、小笠原家8着、奥平家11着、計31着が今に残されています。そのすべてが絹織物で、織り方や紋様に時代ごとの特徴が出ています。この御神衣が納められている衣装箱も江戸時代のもので、蓋の裏には「細男伎楽の次第・御神歌」が書かれています。



歴代中津藩主の御神衣

江戸時代までは直願神社として大名の者しか奉納が許されていませんでしたが、明治以降は一般の氏子からの奉納も受けるようになりました。慶事・祈願などをきっかけとしたものが多く、現在も年に数枚の御神衣が奉納されています。

### 8月の 「たなばたさま」

乾衣祭が行われる時期は旧暦の7月7日にあたり、祭りの伝承とともに旧暦の七夕



古表神社の七夕飾り

行事と結びついていきました。地域の人々の中にはこのお祭りのことを「たなばたさま」と呼ぶ人もいて、現在でも、七夕飾りを8月のこの時期にあわせて並べる家が見受けられます。お祭りの2日間は境内いっばいに奉納ちょうちんが灯され、神社のご神像「女神騎牛像」にちなんだ「牛替くじ」が発売されるなど、参拝客を楽しませます。また、このお祭りの歴史を後世に残すため、町教育委員会では平成29・30年度の2ヶ年にかけて「乾衣祭習俗調査」を実施しています。

一つの神事というだけでなく、地域の風習に溶け込み、歓楽の場としても親しまれてきた「乾衣祭」。吉富町の夏には欠かせないこの歴史深いお祭りは、人々が御神衣や七夕飾りに込めた願いとともに、これからも受け継がれていきます。



昭和9年の乾衣祭の様子(写真提供:山本初男氏)

#### 平成30年 乾衣祭日程

- 8月6日(月) 午後6時30分～ 乾衣祭祭典
- 7時00分～ 牛替くじ販売
- 7時30分～ 番所踊り、奉納踊り
- 8月7日(火) 午後6時30分～ 神楽
- 7時00分～ 奉納子供相撲大会
- 牛替くじ販売